

令和2年度 草津市障害者自立支援協議会 相談支援部会の実施結果

部会長 節木哲也氏（地域生活支援センター 風）

副部会長 河地千衣氏（社会福祉法人にぎやか会 歩歩）

参加機関 草津市委託相談支援事業所、草津市内指定特定相談支援事業所、滋賀県障害者自立支援協議会菅沼氏、障害福祉課

（特定相談支援12か所、障害児相談支援8か所）

会場他 草津市立障害者福祉センター：2階会議室／年4回開催／午後1時半～3時

	開催日時	開催概要	参加
第1回	R2.8.19(水)	<p>【テーマ】各相談支援事業所の情報交換他</p> <p>（意見）指定特定相談支援事業所の相談員は一人事業所も多く、なかなか福祉サービスの情報を得ることが難しい。特に新規開設の相談支援事業所の相談員も、どこにどのような福祉サービスが存在するのかわかりにくい。さらに、18歳未満の障害児と成人のサービスの運用等も市役所に一つ一つ聞いている現状。こういう部会を通して理解していきたい。</p>	17名
第2回	R2.10.21(水)	<p>【テーマ】18歳未満の障害児から成人のサービスの移行について</p> <p>（報告）①指定特定相談事業所への巡回訪問の結果の報告 ②草津市相談支援体制検討プロジェクトの説明 ③草津市指定特定相談体制強化費補助金の説明 ④新規開設グループホームの情報提供</p>	13名
第3回	R2.12.16(水)	<p>【テーマ】PCAGIP法による事例検討</p> <p>事例提供者：アザレア／支援を必要とする精神障害の母親と子どもの家庭への支援について</p> <p>（報告）草津市相談支援体制検討プロジェクト経過報告</p> <p>（意見）今回のPCAGIP（ピカジップ）による事例検討のファシリテーターは節木氏、板書を河地氏が担当した。3回の巡回と、4人程度の班でクロージング（まとめ）を行った。事例提供者が参加者の質問に対応しファシリテーターと参加者がその相互作用を通じて、参加者の力を最大限に引き出し、事例提供者に役立つ新しい取り組みや具体的なヒントを見いだすことができた。</p>	16名
第4回	R3.2.17(水) （一部 zoom での参加）	<p>【テーマ】新型コロナウイルス感染症にかかる在宅生活困難障害者等支援事業の説明と依頼</p> <p>（報告）①社会資源の情報提供 ②養護者等からの要望等について</p> <p>（感想）濃厚接触者への支援の手引き（草津市版）について説明し、新型コロナ感染によって生じる利用者及び利用者の家族での対応について協議。相談部会も対面と zoom による対応を行ったが、一部音響が悪く全体のオンライン会議や研修実施スキル向上が課題。</p>	13名